

もっと前へ

2 学年学年だより
R8.2.18 発行

～ただいたすら前へ～

3月3日は実力テスト！

定期テストがようやく終わったばかりですが、今日、校内実力テストの「出題範囲表」を配布しました。そして3月3日（火）には「校内実力テスト」が行われます。なぜ、この実力テストを行うのかを知ってもらいたいと思います。実力テストは進路選択の目安の1つとして、今年は2年生の5教科の「学習内容すべて」を範囲として、その中から問題を作成し、

- ①自分がどのくらいの学力（実力）を身につけているか。
②自分が目標とする高等学校に行くためにはどのくらいの学力（点数）が必要か。
③そのためにはどの教科をどれくらい学習しなければいけないか。

などを分析して、進路選択（進学する学校を選ぶこと）に生かすためのテストです。大切なことは、この実力テストの結果から自分の現在の学力を確認し、進路選択の際に必要な学力を身につけていくことです。

先日、ある生徒に「偏差値って何ですか？」とか「偏差値ってどうやって見るのですか？」と聞かれました。「高校進学に意識が向いてきた生徒が増えてきたな…」と感じました。自分が全体の中でどのくらいの位置にいるのかを知るには、偏差値はとても便利です。進学塾などでは普通に偏差値を扱うので、生徒のみなさんは気になるでしょう。しかし、偏差値は、受けたテストの人数と学力レベルによって大きく変わるので、塾が違くと偏差値にも差ができます。レベルの高い塾では、レベルの高い高校でも合格に求められる偏差値が低くなったりもするので、判断にはなかなか難しいものがあり、注意が必要です。

3年生になると、定期テストと同じようにこの「実力テスト」を数回にわたって実施します。その点数を見て、希望校に合格できるかなどの判断基準にします。もちろん点数だけでなく、各教科の評定や出席日数、遅刻・早退の数、生徒会や委員会、係などの仕事への取り組みの状況、部活動での実績、各種資格の取得状況、普段の生活態度…等々、さまざまな要因も判断基準になります。

つまり、普段からの心がけも大事になるわけですが、中でも実力テストでは「本番の入試を受けた時に希望の学校に合格できるだけの点数が取れるかどうか」を意識しながら、しっかりとテスト勉強した上で受験してほしいと思います。テスト勉強をしないでテストを受けても、それは本当の実力とは言えません。最後まで勉強をせずに受験をすれば、それが実力になるのかも知れませんが、それでは不合格になることは目に見えています。今回の実力テストも、2学年の「学習の総復習」と「高校進学」を意識し、しっかりと勉強した上で受験するようにしてください。

実力テストの時間割 ①国語 ②数学 ③英語 ④理科 ⑤社会 ★三角定規1組・コンパスを忘れずに！	当日欠席した場合、翌日の4日（水）のみ受験ができません。翌々日の5日（木）は、卒業式練習等があるため、原則、受験できません（4日に終わらなかった教科のみ）。
---	---

予餞会「感謝の気持ちを大切にしたい」

2月27日（金）の予餞会に向けて、1・2年生は合唱『カイト』と群読や劇、ダンス、会場装飾の準備に一生懸命取り組んでいます。生徒たちと一緒に取り組んでいる私たちも、とても楽しい時間を過ごしています。きっと、予餞会当日は卒業する3年生に向けて感謝の気持ちを豊かに表現できるものと思います。

卒業式に向けて

卒業証書授与式が3月10日（火）に行われます。佐倉東中学校を去る3年生の姿をしっかりと見届けると同時に、「自分たちが最高学年となる」ということをしっかりと自覚できるものになると良いです。3年生への感謝の気持ちを、式に臨む態度と気持ちのこもった合唱で伝えましょう。3年生にとって良い卒業式になるよう、みなさんも協力してください。3月2日（月）から2年生も卒業式練習が始まります。式典にふさわしい身だしなみで臨めるよう、準備をしてください。

トピックス

【書写】
第1部会書初展
特選 入選
千葉県小中高校書き初め展覧会
書星会賞
特選
金賞
銀賞

校内書き初め展

金賞
銀賞
銅賞

3月の行事予定

3日（火）	校内実力テスト
5日（木）	全校評議会
6日（金）	卒業式予行練習
10日（火）	第39回卒業証書授与式（給食なし）
11日（水）	生徒委員会
12日（木）	授業参観 年度末保護者会
17日（火）	給食最終日
18日（水）	弁当持参日 大掃除・ワックスかけ
19日（木）	弁当持参日 新入生1日体験入学
20日（金）	祝・春分の日
24日（火）	修了式 離任式 通知表配付

＝日々雑感＝ 「冬季オリンピック」・・・（学年主任より）

イタリア北部の都市ミラノとコルティナ・ダンペッツォで冬季オリンピックが開催されている。

冬季オリンピックと聞いて思い出すのは、1998年に開催された長野オリンピックである。1994年のリレハンメルオリンピックのスキージャンプ団体競技では、原田雅彦選手が失敗ジャンプに終わり、金メダルが期待されていた日本は、2位ドイツに抜かれ銀メダルに終わる。

そして4年後に迎えた長野オリンピック。この原田選手が2本目で137mの最長不倒ジャンプを決める。ジャンプ後の原田選手は、自失したように嗚咽しながらも、次のジャンパーである船木和喜選手へ

「ふなき～、ふなきい～」

と声援をおくるシーンや、金メダル決定後のインタビューで

「辛かったよもう～。またね、みんなに迷惑をかけてんのかなと思ってた。ほんと、辛かった…」と、嗚咽しながら答える姿は、冬季オリンピックの心に残るシーンとして放送されることがよくあるので、見たことがある人もいるかも知れない。国内開催のオリンピックということで、体育の授業でも生徒たちと一緒にテレビ中継を見たことを思い出す（何しろ30年近く昔の話ですので…）。

数ある種目の中でも、私が最も注目していた種目は「スピードスケート」だった。この長野大会ではスピードスケート500mで清水宏保選手が見事、金メダルを獲得したが、私は別の日本人選手に気になる人がいた。その人の名は「堀井 学」。スキンヘッド（ツルツル頭）のスケート選手といえば、「ああ、あの選手か…」と思い出す、お父さん・お母さんもいるのではないだろうか。

堀井選手は長野オリンピック直前まではワールドカップで優勝するなど、世界一のスケーターであった。しかしスケート界にある技術革新が訪れる。スラップスケート（新しいスケート靴。スケートの刃のかかと部分が固定されておらず、かかとが上がってもスケートの刃が氷上に残り、最後の一蹴りが可能になる）の登場である。この新スケート靴の登場により、次々に世界記録が塗り替えられていく。そんな中でライバルの清水選手は、スラップスケートに注目し、いち早くこの新スケート靴を採用する。一方、堀井選手はあえてこの新スケート靴を拒み、従来のスケート靴にこだわった。しかし、堀井選手のもつ記録を破る選手が次々と現れる。長野オリンピック開幕の数ヶ月前になってついに堀井選手もスラップスケート導入を決断する。

しかし「時すでに遅し」で、長野オリンピックで堀井選手は惨敗をしてしまう。一方、清水選手は金メダルの大活躍。その後のインタビューで堀井選手はこんなことを言っている。

「新しい試みに早く一歩を踏み出す勇気がなかった。そうであつたが故に結果が伴わなかった…」敗因を「靴」とか「技術革新」など、自分とは別のところに責任転嫁することもできたはずの彼から出た言葉に私は感心した。自分自身としっかりと向き合っているからこそ言える、強い言葉である。

失敗の原因を自分の「外」に求めれば楽になるが、向上心は失われる。自分の「内」に求めれば、苦しいけれど向上につながるような気がする。結果ではなく、結果と向き合う姿勢の中に、その人の「生きざま」が見えるのではないだろうか？